

# (1) 破損した下水道管の復旧方法について

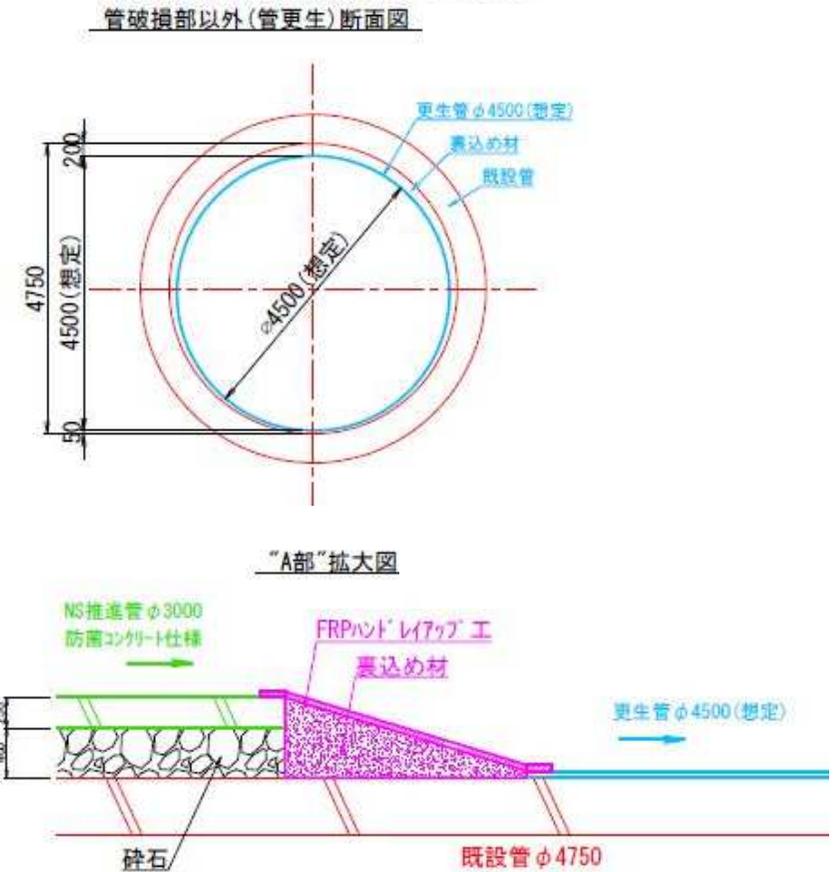
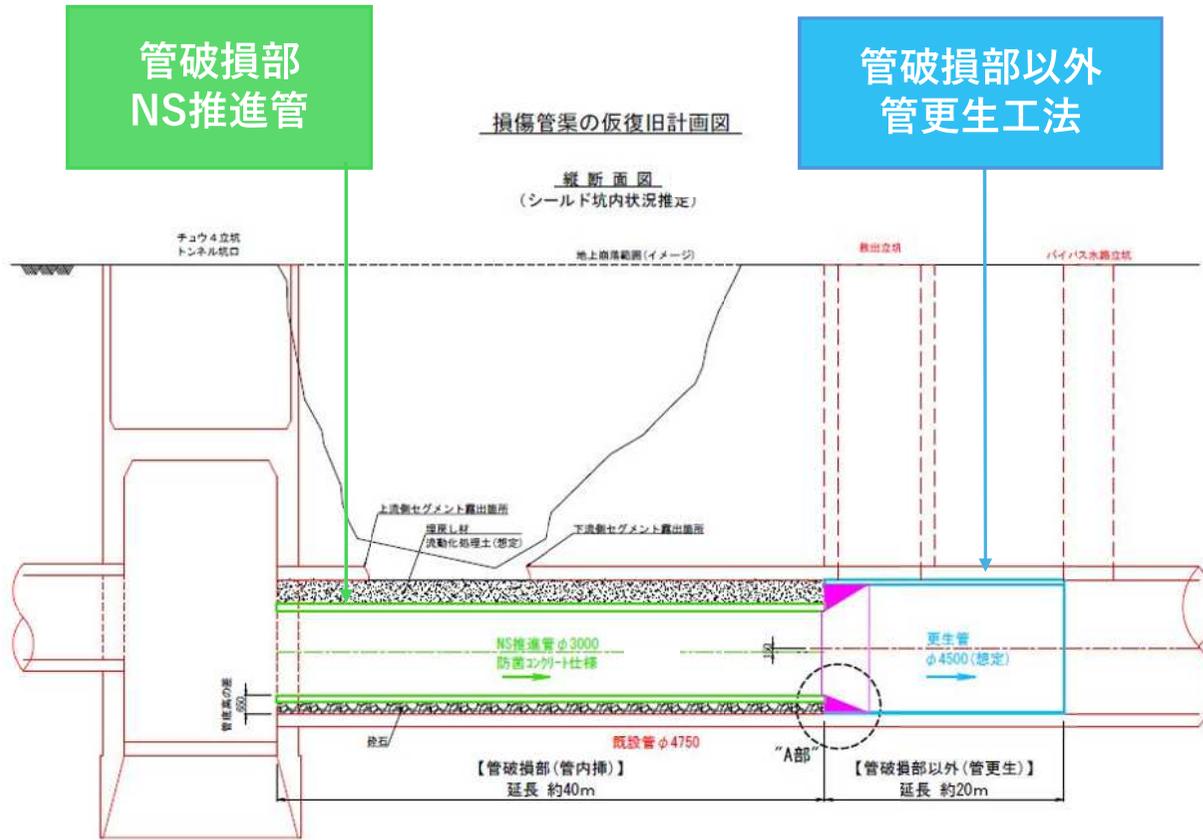
## ○下水道管の仮復旧方法

- <要求性能>
- ・復旧は10年の耐久性を確保できるもの
  - ・φ3000以上の断面形状のもの ※計画下水量は8.991m<sup>3</sup>/sとして計算。(「事業計画汚水量(目標年度:令和11年)」の値)
  - ・復旧の始点はチュウ4立坑から(マシン鋼殻内も復旧対象)

	管破損部	管破損部以外
概要図		
断面形状	<p>NS推進管 内径φ3000(外径φ3500) 【参考】大口径推進管 内径φ3500(外径φ3950)</p>	<p>更生内径φ4500(想定) 【既設管内径φ4750】</p>
内空面積 (m <sup>2</sup> )	<p>NS推進管φ3000 A=7.07m<sup>2</sup> 【参考】大口径推進管φ3500 A=9.62m<sup>2</sup></p>	<p>φ4500 A=15.90m<sup>2</sup></p>

- ## ○下水道管の復旧方法
- ・管破損部：NS推進管（防菌コンクリート仕様）を採用（φ3000）
  - ・管破損範囲外：管更生工法を採用（φ4750）  
※現場条件により管更生工法が適用できない場合は防食処理を実施

# (1) 破損した下水道管の復旧方法について



○管破損部と破損範囲外の接続部分については、FRPハンドレイアップ工により施工する。

※現場条件により管更生工法が適用できない場合は、防食処理を実施

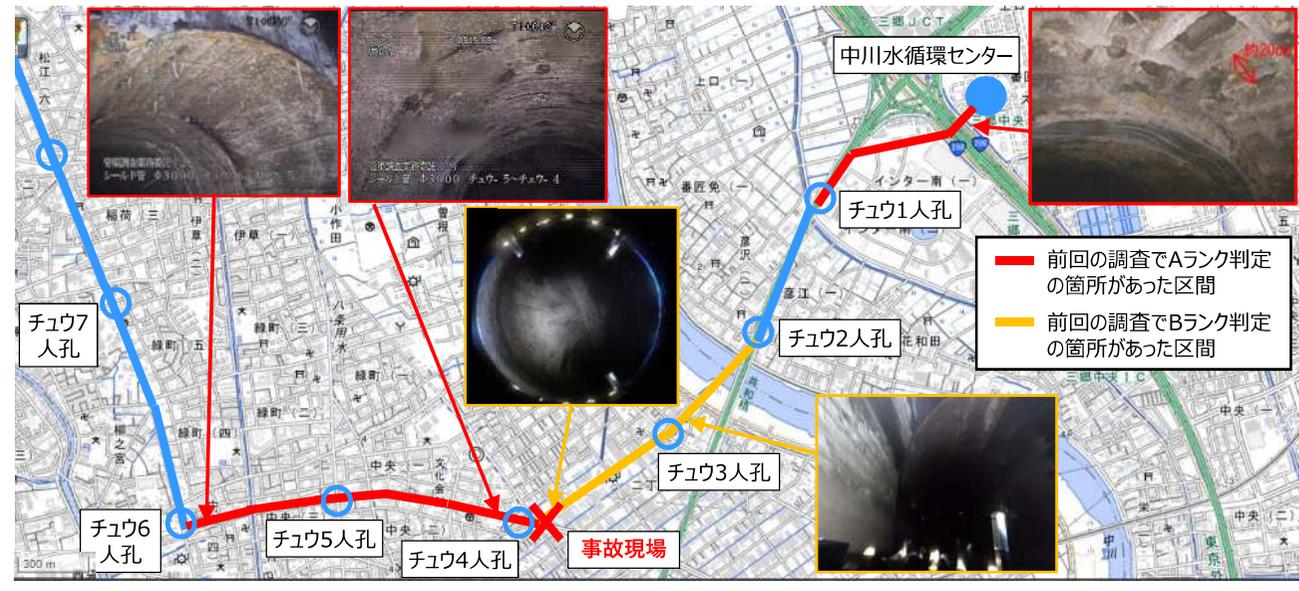
## (2) 抜本的な対策について

今回の事故が発生した中川流域下水道の中央幹線の下流部は、

- ・口径が大きい
- ・水量が多い
- ・埋設深が深い
- ・代替性がない
- ・劣化が進行している箇所が点在

### 今後の本格復旧の方針

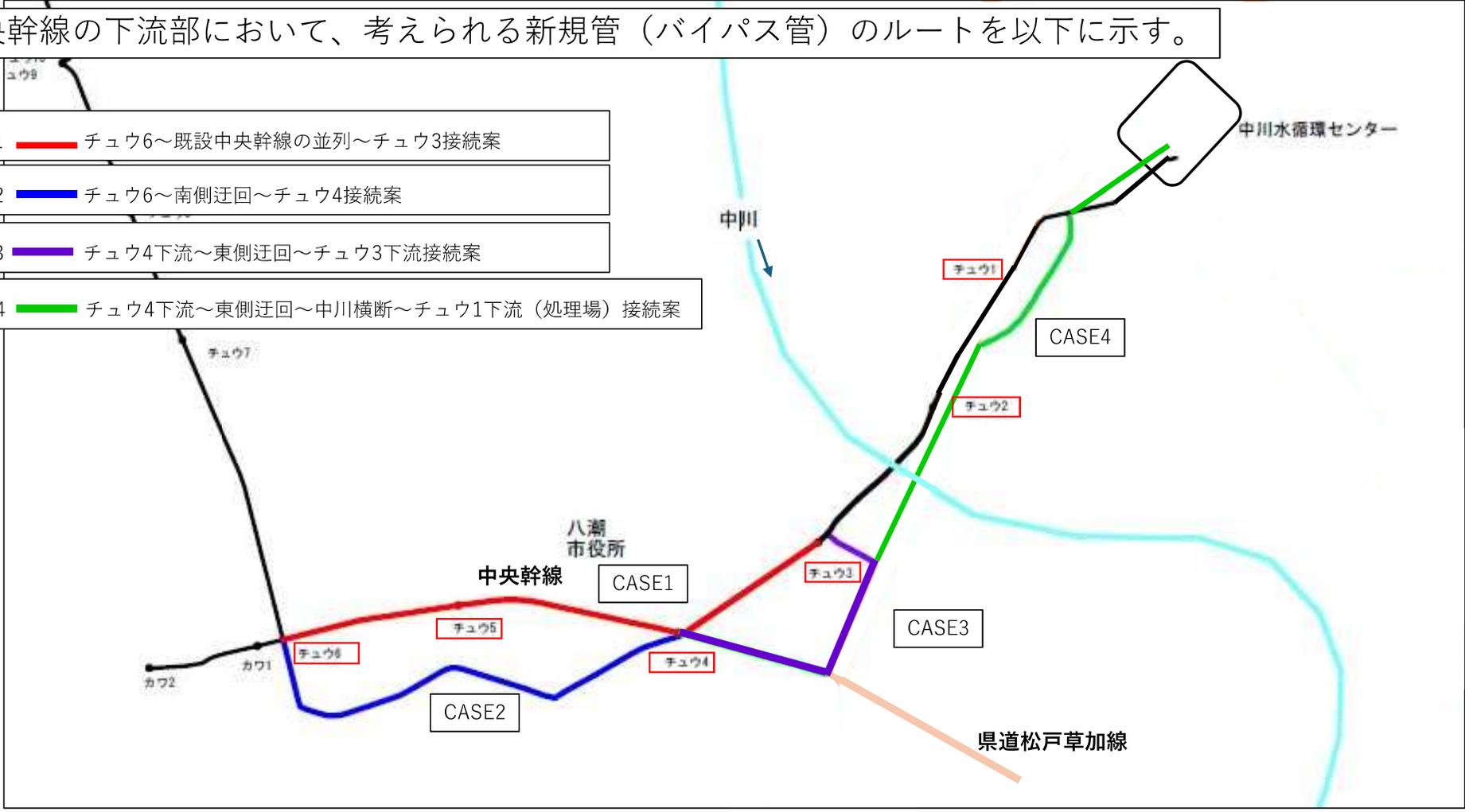
今後の本格的な復旧にあたっては、  
維持管理性やリダンダンシーの確保等も踏まえ、  
**別線の整備(中央幹線下流部の複線化)**  
を行っていく方針



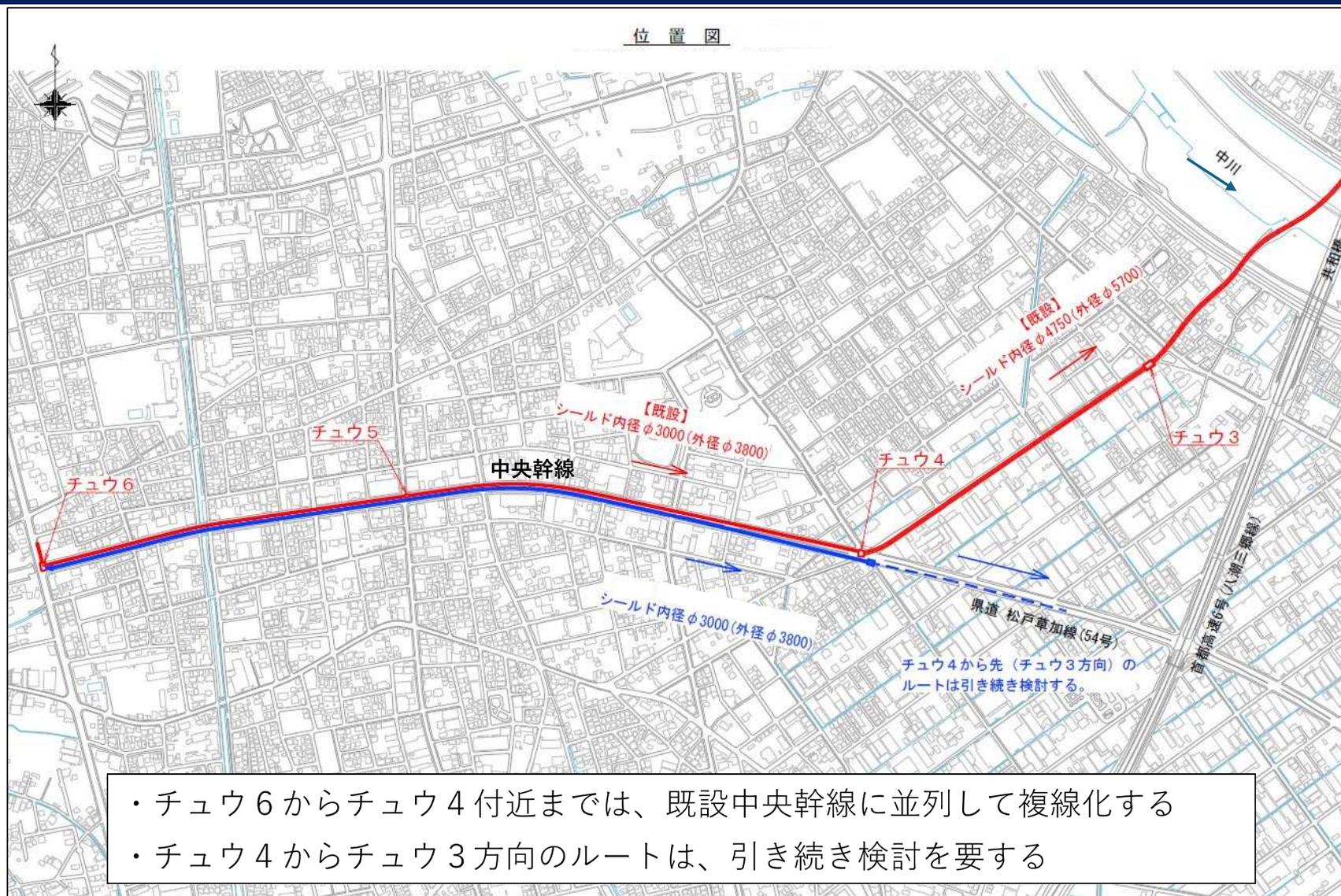
## (2)抜本的な対策について

中央幹線の下流部において、考えられる新規管（バイパス管）のルートを示す。

- CASE1 ■ チュウ6～既設中央幹線の並列～チュウ3接続案
- CASE2 ■ チュウ6～南側迂回～チュウ4接続案
- CASE3 ■ チュウ4下流～東側迂回～チュウ3下流接続案
- CASE4 ■ チュウ4下流～東側迂回～中川横断～チュウ1下流（処理場）接続案



## (2) 抜本的な対策について



## (2) 抜本的な対策について

	R7			R8			R9			R10			R11~R13頃		
破損管の復旧等															
測量・詳細設計															
新チュウ4築造工事 (発進立坑築造)															
シールド機製作															
シールド工事 (新チュウ4~6、1500m)															
新チュウ4築造工事 (人孔築造)															
八潮市公共管接続															
新チュウ3築造工事 (発進立坑築造)															
シールド機製作															
シールド工事 (新チュウ3~4、約600~1200m)															
新チュウ3築造工事 (人孔築造)															